

①教育課程・学習指導

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果				自己評価	次年度改善策	外部評価					
					教職員	保護者		地域				児童				
					評価	評価	評価	評価								
確かな学力の育成	自分の考えや思いをまとめ、伝えあえる子どもを育成する	基礎・基本的な知識・技能の習得を図る。	全校で書き取り会、計算会を実施する。	月1回、全校テストを実施し、80%以上の達成児童を8割とする。	4.1	3.6 学習の内容が良くわかり、基礎的な学力が身についている。	4 4.2	3	4 学習態度が良い。教師の教え方は熱心で分かりやすい。	3.6 漢字が正しく書けるようになった	B	・音読の時間を授業の中にとる。 ・家庭学習に音読を入れる。 ・朝読書は定着したが、読書の質を高めるためには読ませる本に配慮する。 ・親子読書などの活動を推進するなど家庭での読書の定着を目指す。	B			
			授業に音読や視写を取り入れる。	国語科の授業では、週1回以上は、音読や視写の時間を設ける。		4	3.9 友達の意見や先生の話をよく聞いて学習している。		4.2	3.7 計算が正しくできるようになった						
				音読カードを活用し正しく読めるようにする。		3.8	3.3 自分で考えたり試したりする力がついている。			4.1 友達の意見や先生のお話をよく聞いて勉強している						
			朝読書に全校で継続的に取り組む。	週3回は朝読書に取り組む。		4.8				4.2 先生はよく分かるように勉強を教えてくれる。 4 勉強や運動で力がついてきたと思う。						
				週2回以上は教員がつき、一緒に読書する。		4.1	3.5 読書を進んでしている。			3.2 音読がすらすらできるようになった						
			毎日家庭学習を出し、点検することにより学習の習慣化を図る。	(10分×学年)に見合う量と内容を出す。		4.1	3.1 家庭学習の習慣が定着している。			4.1 読書は好き						
				家庭学習に取り組んだものに目を通し、認め励ます。		4.3				4.2 毎日家で勉強している ・30分以下 33% ・30分～1時間 47% ・1～2時間 16% ・2時間以上 2%						
			言葉で伝える力を育てる。	自分の考えを話す時間を設ける。		朝の会にスピーチの時間を設ける。	3.5 話し合いの学習で自分の意見や考えをいうことができる。		2.1 2.2	2.8 勉強中よく発表する。				C	・聞く力を育てることで発言に自信をつける。 ・日記指導を継続する。 ・発言回数を増やす工夫をする。	C
				自分の考えを書く時間を設ける。		全校集会後聞いたことをまとめる。	3.4 大きな声で発表できる。		3.2 大きな声で発表できる。	2.8 自分の考えや思ったことを文章に書くことが好き。						
						自分の考えをまとめ、書く活動を授業の中に取り入れる。	4.1									
			週2日以上家庭学習で「発見したことノート」に取り組ませる。	2.6												
	話し合う力を育てる。	授業に話し合う場を設ける。	生活科、総合的な学習の時間の研究授業で話し合う場を公開する。	3.7			3.8 勉強中友達と話し合うことが好き。	D	・学級活動の時間に話し合い活動を計画的に入れていく。 ・話し合いの仕方を学習させることは大切だが、具体的な手立てについては検討を要する。 ・話し合いの学習の系統性を確認し、段階に応じた指導を行う。	C						
			ペア、小グループ、学級全体等のいろいろな形態の話し合いを取り入れる。	3												
		話し合いの仕方を学習する機会を設ける。	学活で学期に3回は、話し合い活動に取り組み、話し合いの仕方を指導する。	2.5												
			年度の始めに、学年に応じた話型を掲示し、日々の授業に活用する。	2.8												

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	外部評価	
					教職員	保護者		地域		児童				
					評価	評価	評価	評価	評価	評価				
教育管理		時数確保に取り組む。	年間予定時数を把握し、4期に分けた教育課程を実施する。	どの学年も標準時数(総時数・教科時数)を確保する。	4.5							B	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画については、課題を整理して次年度に生かす。(1月末提出) 時数確保は定期的に行えたが、月ごとの統計ができなかったため、3学期はパソコンに打ち込めるようにした。 教材備品に関する夏季休業中の整理は定着しているため来年度の項目から外す。 子どもによる授業評価を取り入れる。 授業中に学習の記録をとる。 	B
		年間計画の見直しと改善を図る。	効果のあった実践や課題のあった実践が次年度につながるようにする。	変更や次年度の参考になる実践を年間指導計画に入れる。	/									
		評価を適切に実施する。	日々の評価や単元ごとの評価を工夫する。	学級ごとに補助簿を作成し、学習の記録をとる。	3.1									
		中高学年は島根県学力調査の分析結果を指導に生かす。	中高学年は各学級ごとに課題を明らかにし、具体的な取り組みを行う。	学級経営案に位置づけ実施する。	4.4									
		教材・教具を整備し活用しやすくする。	教材備品整理を行う。	年に1回夏季休業を活用し分担して行う。	4.8									
				年度末に次年度活用したい教材・教具を整理する。	/									
ふるさと教育を推進する	ふるさと教育を推進する	地域を素材とした「生活科・総合的な学習」を展開する。	国語科との関連を図り、全学年江の川に視点をあて系統性を考えた学習を計画・実施する。	年2回、生活科・総合的な学習の研究授業を実施し、授業研究を行う。	4.1						B	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用は学期に1人以上に変更する。 発信の場として年に1回は公民館を活用する。 	B	
				生活科・総合的な学習の時間に、育てたい力のつながりを明確にする。	3.8									
		ふるさと教育の年間指導計画を見直す。	ふるさと教育の年間指導計画を見直す。	2月末日までに、ふるさと教育の年間指導計画を作成する。	/									
		外部講師を積極的に活用する。	外部講師の人材バンクを作成し、活用する。	年間1人以上は外部講師を招いて授業を行う。	5				3.9	学校の先生以外(地域の方)の学習は好き。				
				外部講師の人材バンクを整理する。	3									
	関係諸機関と連携した活動を計画する。	年1回は関係諸機関と連携した活動を行う。	4											
子ども達の学習の成果を地域に発信する。	子ども達の学習の成果を地域に発信する。	年1回以上は、地域へ発信する場をもつ。	3.7											
自分を見つめ、思いやりをもって行動することも育てる	自己有用感の方策を創造する。	一人ひとりに仕事を任せ、できるように支援し、できたことを認めていく。	一人一役の当番活動を表示し、自分の仕事ができるようにする。	3.6				2.5 2.1 2.8 3.4	D	<ul style="list-style-type: none"> 集会活動を積極的に取り入れ学級作りを行い所属意識を高める。 異学年との交流の項目は、ペア学級を体育や他の教科などに生かす取り組みを学期に1回行うだけにする(行事等での取り組みは項目として取り上げなくても行う)。 	C			
			クラブ・委員会の活動の反省を学期末に子どもに返す。	4.7										
		参加体験型の学習場面を設定する。	参加型学習で自己有用感を育てる学習を学期に1回は行う。	2										
		道徳との関連を図る。	心のノートを活用する。	2.5										
		異学年との交流を進める。	ペア学級の活動を企画する。	ペア学級の活動では上学年が下学年を指導する活動を必ず取り入れる。	2.7	4.2	上級生と下級生の仲が良い。						3.2	上級生は下級生に親切にしてくれる。
	2													
上学年が下学年を指導できる場を作る。	4.6													

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	外部評価	
					教職員	保護者		地域		児童				
					評価	評価	評価	評価	評価	評価				
		友達のよさに気づき友達を大切に取る方策に取り組む。	相手の気持ちを考えた言葉使いができるようにする。	言葉使いを意識させるような生活目標を立てて取り組む。	3.7					2.8	悩みを話したり相談したりする友達がいる。	C	・心のノートの活用を意図的・計画的に行う。	C
				学級活動の中で言葉使いについて具体的に考えたり振り返ったりする場を持つ。	4.4				4.0	困っている友達に自分から声をかけたり親切にしてあげたりしている。				
		道徳との関連を図る。	心のノートを活用する。	2.5					3.6	分け隔てなくだれとでも仲良くしています。ことば使いは良いほうだと思う。				
健康や安全に気をつける子どもを育てる	子ども達の望ましい生活習慣づくりに取り組む。	食に関する学習を行う。	食のノートを2回は活用する。	3.1	3.8	食生活・生活習慣づくりに力を入れている。	3	食生活・生活習慣づくりに力を入れている。	3.6	早ね・早起き。朝ご飯に気をつけている。	C	・食のノートの活用をする。	C	
			栄養士とTTで指導を行う。	4										
	体力づくりに取り組む。	年間を通して体力づくりを行う。	学級の実態に応じて体力づくりに取り組む。	3.8	3.9	体力づくりに力を入れている	2.7	体力づくりに力を入れている	3.6	勉強や運動で力がついてきたと思う。 3.5 天気のよい日には外で遊ぶ。 2.9 毎日決めた運動をしている。	c		B	
	6年間を見通して達成させたい運動基準を作成する。													

検証と考察

- ・学級により取り組みの差がある。
- ・音読は校内での取り組みは行われているが、子どもの力となって表れていない。今後も継続が必要である。
- ・読書については校内での取り組みは行われているが、マイナス評価の一因として家庭での読書が十分とはいえない。
- ・授業公開はしたが、話し合いの手立ての工夫が不足していた。
- ・時数確保の取り組みは効果があった。
- ・評価については課題が残った。手立てが必要である。
- ・外部講師の活用は定着してきた。
- ・公民館が近いので地域への発信の場として生かしたい。
- ・自己有用感を感じている児童が少ない。ペア学級の活用の仕方に工夫が必要である。
- ・心のノートの活用が十分ではなかった。
- ・子どもに食の大切さを理解させていくことが家庭の意識改革につながる。
- ・保護者や地域の方は、授業中の態度や様子については評価できるが、体力づくりや食生活等の指導など学習時間だけでは分かりにくいものは評価しづらい。(分からないの回答が多い。)

外部評価

・確かな学力という視点が明確化されており、全教職員共通理解のもとに実施されている。児童の成長段階にそった手立てに今少しきめ細やかさを望む。

外部評価を受け止めた学校としての次年度の改善策

- ・音読については、指導過程に位置づけて短時間でも声に出して読む時間の確保を図る。
- ・子どもに読ませたい本の紹介を、家庭向けの情報発信として、「図書館便り」もしくは「学校便り」に学期に1回は載せる。
- ・話し合いの学習の学年系統を整理して一覧表を作成する。
- ・中学年以上の学年は質問メモを取り入れる。
- ・発言回数や発言内容について、良いものを積極的に評価し認めていく。
- ・授業の自己評価カードの導入、評価カードを生かした単元構成の工夫、単元ごとの補助簿の作成(生活科、総合的な学習の時間、国語科)をする。
- ・年間指導計画の評価の観点や他教科・領域との関連について実践を通して見直し、さらに改善していく。
- ・夏休み中のサマースクールに勉強ボランティアの方の活用をお願いする。

②生徒指導

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	部評	
					教職員	保護者		地域		児童				
					評価	評価	評価	評価	評価	評価				
安全対応能力の育成	健康や安全に気をつける子どもを育てる	子ども達の望ましい生活習慣づくりに取り組む。	生活習慣に関する調査をする。	生活習慣に関する調査をする。	4.7							C	・内容の見直しをした上で、次年度も実施し、比較できるようにする。	B
			調査結果を家庭に伝える。	3.6										
			ショートの保健指導の中で学年に応じて指導する。	3.8										
			授業の様子を学級便りや保健便りで保護者に伝える。	3.8										
	危機回避能力の育成に取り組む。	学校全体で学年に応じた安全指導を行う。	交通安全週間にあわせて、学級活動で交通安全指導を行う。	4	3.7	交通ルールを良く守っている。	3.2	危険なことをせず交通ルールを守って生活できている。	4.5	正しい自転車の乗り方やどうろの歩き方をしている。	C	・確認したことを来年度も継続して指導する。	B	
			雨の日の集団遊びを指導する。	3.5				4.5	あぶない遊びはしていない。					
			渡津っ子の約束を見直す。	5	3.9	家や地域で危険なことをして遊ばない。		3.6	校舎内で走ったり、危ないことをしていない。					
自分を見つめ、思いやりをもって行動する子どもを育てる	自己有用感の方策を創造する。	自分のしたいことを選んだり試したりする時間や場を持つ。	ロング昼休みを月1回実施し、学期に1回集団遊びを企画する。	2.1						C	・特別教室の使用は来年度も続けるため残す。 ・ポストの利用が生かせなかったため効果が薄い。来年度は取りやめる。 ・生徒指導職員会では問題行動についても、インシデントプロセスの方法を取り入れる。	C		
		休み時間、職員がついていれば特別教室を利用できるようにする。	4.5											
		授業中、一人で考えたり試したり選んだりする場や時間を確保する。	4.1	3.3	自分で考えたり試したりする力がついている。									
		教育相談の体制を工夫し、個に応じた支援活動をしていく。	4.8											
月1回の生徒指導職員会で教職員間の共通理解を図る。	生活時程を工夫し、教育相談を定期的に持つ。	誰にでも相談できるようにする。	4.7	3.9	4一人ひとりの子どもが大切にされていると思う。 先生は子どもの様子を良く見ており、相談できる雰囲気がある。			3.1	悩みを話したり困っているとき相談に乗ってくれる先生がいる。					
			4.8											

中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	外部評価	
				教職員	保護者		地域		児童				
				評価	評価	評価	評価	評価	評価				
	あいさつ・返事・くつそろえができる子どもを育てる。	意識化できるようにする。	学級で振り返りカード等を作成し活用する。	2.6						C	・あいさつ・返事・くつ揃えについてはPTAとの連携が必要である。学校だけではなかなか取り組みの成果が出ない。 ・日直の整頓や教師からのあいさつは当然なのではずす。 ・引き続き継続して取り組む。	C	
			短期目標にして学級全体で取り組む。	3.4									
		児童会を中心にした取り組みをする。	月ごとに各委員会(計画委員会以外も)であいさつ運動に取り組む。	3.1 はきものがよくそろっている。 3.2 あいさつがよくできる。 3 返事がよくできる。	5	3.5 学校内でのあいさつがよくできる。	3.5 学校内でのあいさつがよくできる。 校内のはきものがそろっている。 授業中の返事がよい。 3.2 地域でのあいさつがよくできる 2.3 公園や公民館など公共の施設でのマナーが身についている。	3.9 あいさつは良くできるほうである。 3.4 くつそろえは良くできるほうである。 3.7 返事はよくできるほうである。					
		環境を整える。	日直はトイレのスリッパの整頓をしてから退庁する。 音楽室に入るときは上靴をそろえる。 あいさつは教師から声をかける。	4.9									
	4.2												
	4.7												
	友達のよさに気付き友達を大切にすることを方策に取り組む。	互いの行動のよさを認め合う場を持つ。	学級で担任が善行を知らせる場を持つ。	4	4.1	学級の子供同士が仲良しである。		2.5 自分は学級の役に立っていると思う。 2.1 自分は学校の役に立っていると思う。 2.8 自分の良いところが3つ以上言える。 3.4 自分が好き。	C	・集会活動を積極的に取り入れ学級作りを行い所属意識を高める。	C		
			帰りの会でよいこと見つけの取り組みをする。	3.1									
相手の気持ちを考えた言葉使いができるようにする。		言葉遣いを意識させるような生活目標を立て、取り組む。	4.4				3 ことば使いは良いほうだと思う。						
		学級活動の中で、言葉遣いについて具体的に考えたり、振り返ったりする。	4.2										
教職員間の共通理解を図る。		生徒指導職員会で情報交換する。	4.7										
		休み時間に子どもの良さについての話題を出す。	3.6				2.9 先生によくほめてもらう						
校内組織	問題行動への組織的な対応が取れるようにする。	校内組織を作り活用する。	生徒指導職員会で気になる子供の状況について計画的に情報交換を行う。	4.4				B	・職員会の起案を前の週の木曜日には提出するようにする。	B			
		問題行動が起きた場合は、マニュアルにそって対応を協議する。	3.4										
		年間計画について計画・立案し、共通理解して実施する。	4.2										

検証と考察

- ・生活習慣アンケートは、就学時健康診断には生かしたが、学校では十分生かせなかった。
- ・指導は行っているが、定着していない面がある。
- ・互いの良さを認め合うための方策を探っているが、効果が表れていない。評価観点を見直す必要がある。
- ・安全については知識として知っているが、家庭や地域での実践に十分結びついていない。
- ・振り返りカードでは意識が育たなかった。
- ・悩みの相談ができるような方策をとっているが、効果が表れていない。評価観点を見直し、目標を達成するための手立てを考えたい。
- ・報告・連絡・相談の体制がとれており機能している。

外部評価

- ・あいさつ、返事、くつそろえでは教師の積極的な指導がなされている。今後も継続した取り組みで高めていって欲しい。
- ・相手の立場に立つてもの考えることについての、積極的な指導が見られる。場面場面に応じた指導を継続していくことで、学年があがるにつれ子どもの意識が高まっていくと考える。
- ・心のノートの効果的な活用を望む。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

- ・教育相談ポストを常設する。
- ・あいさつ・返事・くつそろえは継続して取り組む。
- ・公共施設や乗り物の利用を通して具体的なマナーを指導する。
- ・外部講師による研修会を行う。
- ・心のノートの活用状況を年間計画に書き込む。
- ・心のノートを学校と家庭が連携した活用になるように工夫する。
- ・食のノートも年間計画に入れて指導する。
- ・避難訓練をフリー参観日に継続して実施する。
- ・ロング昼休みに掃除班で安全点検する。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	教職員	保護者		地域		児童		自己評価	次年度改善策	外部評価
					評価	評価	評価	評価	評価	評価				
	キャリア教育	キャリア教育についての認識を深め、学校全体で取り組めるようにする。	キャリア教育全体計画を見直す。	学校の実態に合わせて修正する。	3.2					4	将来の夢やつきたい仕事がある。	c	・お礼の手紙を活用することで外部講師の仕事に対する思いや願いについて考える機会を持つ。 ・キャリア教育についての研修も必要である。	C
			家庭・地域社会・関係機関との連携を図る。	見学先や外部講師との出会いを通して職業や勤労に対する思いを聞く機会を年間1度はとる。	3.5									

検証と課題

・全体計画の見直しは行ったが、担任や担当の意識に温度差があり実践の中に十分生かされたとはいえない。

外部評価

・担任や担当による温度差があると評価されているので、共通理解のもち方を工夫したらどうか。
・これまでの実践や体験を生かして取り組んでいくことが大事である。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

・外部講師を招いたときに、授業の終わりに、仕事への思いを話してもらう時間を設ける。

④安全管理

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果								自己評価	次年度改善策	外部評価	
					教職員		保護者		地域		児童					
					評価	評価	評価	評価	評価	評価						
安全 対応 能力 の 育成	健康や安全に 気をつける子 どもを育てる	危機回避能力 の育成に取り 組む。	学校防災計画に沿った避難訓練を 行う。	火災・地震についての避難訓練を 学期に1度行う。	5	4.1	避難訓練や防犯に対す る取り組みがある。	2.5	避難訓練や防犯に対す る取り組みがある。			B	・避難訓練は年間計画通り に行われているので外す。 防犯訓練や交通安全につい ては引き続き行う。 ・学校安全計画の見直しは 学期末に学校評価にあわせ て行う。 ・不審者侵入のシミュレー ションは毎年研修として行 う。 ・地域の方との通学路の点 検は年1回は行うようにす る。	B		
			交通安全・防犯教室を年1回行う。	交通安全・防犯教室を年1回行う。	4.8											
			交通安全・防犯教室を定期的に行 う。	安全点検を学期に1回子どもと一 緒に行う。	2											
				年に1度は消防署・警察署の指導 を受ける。	4.1											
			校外での危険箇所について実際に 確認する。	学期に1回集団下校に付き添い、 SOSの家や危険箇所の確認をす る。	4											
			学校安全計画を作成する。	年度初め、全職員で共通理解す る。 年度末、結果について反省する。	3.8											
	危機管理マ ニュアルの作 成と活用を図 る。	マニュアルに沿ったシミュレーシ ョンを行う。	年に1度は消防署・警察署の指導 を受け不審者の侵入に関するシ ミュレーションを行う。	4.8											B	B
			年に1度は消防署・警察署の指導 を受け事故の発生におけるシミュ レーションを行う。	3												
		職員研修を行 う。	教育活動上での事故発生に関する 研修を行う。	3.6											B	B

検証と考察
 ・避難訓練は定着している。 ・避難訓練や防犯への取り組みは保護者や地域の方からは見えにくく、分からないという回答が多い。
 ・応急処置や不審者対応のシミュレーションなどの研修の機会があり良かった。

外部評価
 ・危機管理、安全管理に学校は計画通り行われ、熱心に取り組んでいる。毎年継続して取り組んでいく必要がある。
 ・不審者等への対応は保護者・地域も一緒になって熱心に行われている。
 ・避難訓練や防犯訓練に関する地域の評価が低いのは学校の内部のことが見えにくいからではないか。見えるようにする工夫も必要である。
 ・学校からの便りも出ているが、地域全体への周知方法に一工夫欲しい。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策
 ・避難訓練・防犯訓練を行う際に、年間1回は参観日に実施し、実際の活動の様子を見てもらう。

⑤ 保健管理

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果								自己評価	次年度改善策	外部評価
					教職員	保護者		地域		児童					
					評価	評価	評価	評価	評価	評価					
		年間を通じた保健指導・管理を行う。	学校保健計画を作成する。	年度初め、全職員で共通理解する。	4.4							B	・健康診断については法令に基づいて行っている。 ・学校保健計画の見直しも学期末に学校評価として行う。	B	
				年度末、結果について反省する。											
		定期的に健康診断をする。	健康診断を実施する。	実施計画を作成し、共通理解を図る。	5							A		A	
				子どものプライバシーに配慮する。	5										
				教育活動の一環として組織的に行う。	5										

検証と考察
・保健主事を中心として管理は的確に行えた。

外部評価
・適切に行われている。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策
・今年度どおり行う。

⑥ 特別支援教育

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	外部評価	
					教職員	保護者		地域		児童				
					評価	評価	評価	評価	評価	評価				
	自分の考えや思いをまとめ、伝えあえる子どもを育成する	個に応じた支援をする。	特別支援の必要な児童には、個に応じた指導の充実を図る。	個別の指導計画を立て、指導に生かす。	4.7						C	・出前講座は今後も活用していきたい。	C	
			医療機関との連携をする。	定期的に療育機関に出向き指導の様子を参観する。	3									
			特別な支援を必要とする子供について理解する。	出前講座等を活用し専門家による研修の機会を持つ。	4.8									B
	自分を見つめ、思いやりをもって行動することも育てる	自己有用感の方策を創造する。	個に応じた支援活動をしていく。	特別な支援を必要としている子供について話し合う時間を持ち、対策を考える。	4.4						B	・インシデントプロセス法による研修の機会は続けたい。定期的に行うようにする。関係者だけの会にしないで全員参加の形態にするように改善したい。	B	
				担任がチェックシートで子どもの様子を具体的に把握する。	3.5									
				教科担当は授業中の子供のよいところを担当に伝える。	4.8									

検証と考察

- ・出前講座による研修は良かった。特別な支援を要する児童への支援のあり方について共通の基盤を持つことができた。
- ・個に応じた支援活動は大切なことである。教師の負担が大きくなりがちだが、その効率的なやり方を探りたい。

外部評価

- ・熱心に取り組んでいる。
- ・個別の支援を要する子どもへの対応はこれからも意識してやってほしい。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

- ・チェックシートのより簡単なものを紹介する。
- ・特別支援コーディネーターを中心に校内就学指導委員会を定期的に関き、個別の指導が必要な児童に対しての指導体制を機能させる。

⑦ 組織・運営

自己評価の結果

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	教職員		保護者		地域		児童		自己評価	次年度改善策	外部評価	
					評価	評価	評価	評価	評価	評価						
		学期ごとの学校評価を活用した教育課程の編成・実施を行う。	分掌・担当で課題の整理と対策を協議し提案する体制づくりをする。	学期ごとに部会や関係者会議を開き、提案しあう。	3.6								C	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会計の処理について共通理解する。 ・夏季休業中に重点目標の達成状況についての見直しをするので、今年のような重点目標についての参加型研修は必要ない。 ・個人情報に関するアンケートは修正しながら毎年実施する必要がある。 ・学校事故への対応については保健日誌に詳細が記入してあるので項目から外す。 ・分掌部会や学年部会の内容については主任がリーダーシップを取っていく。 	C	
		学校の重点施策を全員で考え実行する。	全員参加で重点課題を決め、計画を立てて実行する。	夏季休業中に組織マネジメントを取り入れた参加型研修を行い、作成する。	5								A		A	
		共通理解したり点検しあったりできる体制を作る。	学年部会・分掌部会を定期的に行う。	月1回の分掌部会、2回の学年部会を定例化し、課題について話し合う。	2.4										D	C
		情報管理を適切に行う。	情報管理に関する校内規定を作成する。	校内ランに関する規定を作成する。	3.6										B	B
				個人情報の扱いに関する規定を作成する。	4.1											
				個人情報に関する保護者のニーズを把握して対応できるようにする。	4.8											
				アンケートに基づいた表活用して保護者のニーズに応じていく。	4.7											
		意図的・計画的な学級経営をする。	学期ごとに学級経営案を作成する。	実施状況を点検し次学期に生かすようにする。	4.2								B		B	
学校事故への対応状況を把握し生かせるようにする。	学校事故への対応状況を記録する。	毎日の保健室利用状況に合わせて記録していく。	5								A	A				
学校会計を適切に処理する。	明確で迅速な会計処理を行う。	学級会計は毎学期末に清算し報告する。	3.8									C	C			
		市費、私費の会計は各学期末に中間報告をし、年度末に決算報告する。	3													

検証と考察

- ・分掌部、学年部の経営が計画的にできなかった。校内支援委員会としての機能も有しているので、管理職と相談しながら会の持ち方や内容について主任がリーダーシップを取っていくことが望まれる。
- ・全員参加の学校運営の基盤づくりはできた。
- ・個人情報(映像権や著作権も含む)に関するニーズの把握はできた。保護者への啓発の意味も含め今後も継続していきたい。
- ・会計の処理については透明性の高いものになるよう、通帳の処理も含め改善することが必要である。

外部評価

- ・全体的には熱心に行われている。校長の経営方針が明確で教職員にも周知されていると、来校して感じる。
- ・学校評価への対応の仕方がきめ細かく行われている。
- ・大変多忙であろう。教師一人ひとりに余裕が持てるようにと願う。
- ・部会運営は時間的に難しい場合も出てくる。定期的に行うことが難しければ、具体的方策を再度検討してみたらどうか。
- ・会計処理に課題があるなら、共通のマニュアルを作成したらどうか。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

- ・朝読書の時間も活用し、担任以外の教職員が教室へ行き、担任間で部会別会議を必ず行うようにする。
- ・会計処理についてはマニュアルを作成し、必ず記帳するようしていく。

⑧研修

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果								自己評価	次年度改善策	外部評価	
					教職員		保護者		地域		児童					
					評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価				
	自分の考えや思いをまとめ、伝えあえる子どもを育成する	教職員の指導力の向上を図る。	研究会へ積極的に参加する。	年2回以上、研修会、研究会に参加する。	4								B	・年度初めに2回の授業計画をたてておくことが必要。 ・指導案に関する協議はいつもしていることなので、「全員授業公開し、教員同士学び合う。」という内容に変える。 ・ことばの広場の掲示が計画的に行えなかった。月行事の中に入れておきたい。 ・職員による「渡津の町探検」を長期休業中に計画し、職員による地域学習を行う。	B	
		校内研究に関する研修を通して、指導力の育成を図る。	単元計画や指導案について具体的に協議する。	研究のたびに行う。	4.7								B		・ことばの広場の掲示が計画的に行えなかった。月行事の中に入れておきたい。 ・職員による「渡津の町探検」を長期休業中に計画し、職員による地域学習を行う。	A
			授業後検討会を持つ。	研究のたびに行う。	4.8											
			校内研究以外の校内での研修は年間を通して計画的に実施する。	分掌主任を担当とし実施する。	実施状況は100%とする。	3.5										B
		研修方法を工夫する。	報告だけでなく、参加型も学期に1回は取り入れる。	3.3												
ふるさと教育の推進	ふるさと教育を推進する	地域を知るための職員研修を実施する。	地域について知り得た情報を共有する場をもつ。	年度末に、情報を共有する場をもつ。									C	C		

検証と考察

- ・教育事務所による訪問指導2回、年間2度の公開授業は良い試みであった。課題もあるが、前向きに取り組めた姿勢は評価したい。
- ・生徒指導職員会、英語活動研修、学力調査を踏まえた手立ての構築、学校目標等に参加型研修を取り入れ新しい研修方法が試みられた。
- ・地域を知るための研修は2月に行ったので、12月の自己評価では評価ができなかった。

外部評価

- ・校内研修体制が整い、機能しているが、地域に関する職員研修はもっと早い時期に行うと良い。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

- ・ふるさと教育の成果を地域にもっと発信する場を設ける。
- ・職員による「渡津の町たんけん」や外部講師を招いての研修会を夏季休業中に行う。

⑨保護者・地域住民等との連携

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果						自己評価	次年度改善策	外部評価		
					教職員	保護者		地域		児童					
					評価	評価	評価	評価	評価	評価					
学校間の連携		校種を超えた交流を行う。	江の川高校と交流する。	年1回は行う。	5	4.7	小学校以外の学校と交流する機会があってよいと思う。				B	<ul style="list-style-type: none"> これまで交流していた学年が卒業するので、江津清和養護学校とは来年度以降の進め方について協議していく。 松平小学校とは今後も継続するが、学期に一回授業に参加するだけでなく相互の交流も考えていきたい。 江津中とは少しずつ実績を積み上げたい。 	A		
			江津清和養護学校と交流する。	在籍児童の学年にあわせ交流学習を通して交流する。	5										
			渡津保育園と交流する。	1年生と5年生を中心として年2回以上交流する。	5										
			同一中学校に進学する小学校と交流する。	松平小学校と年間3回は行う。	5										
				郷田小学校と年間2回は行う。	2.3										
			江津中学校と交流する。	江津中学校と交流授業をする。											
学校・保護者・地域との連携		地域へ学校や子どもの様子を情報発信する。	児童の活動の様子を家庭や地域に知らせる。	月1回以上、学校便りを発行し、学校の活動や児童の様子を紹介する。	4.1	4.1	学校は教育方針や課題を伝える努力をしている。	5	学校は教育方針や課題を伝える努力をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会にあわせ、学習の成果が見えるような手立てを考える。 アンケート結果は外部評価書の公表に替える。 	B			
				ホームページを立ち上げ、学校の活動や児童の様子を紹介する。											
			保護者・地域の人に、学校・児童の様子を見てもらふ機会を増やす。	年2回フリー参観日を設け、学校の様子を見てもらふ。	5	4.7	参観日などに参加しやすくなっている。	4.2	参観日などに参加しやすくなっている。						
				公民館と連携を図り、川の清掃活動を地域の人と一緒に年2回以上行う。	3.3										
				学習発表会や運動会等の行事には地域全体への案内状を出す。	5										
				学校行事に合わせ校内掲示を工夫し、学習内容を見てもらふ。	4.7	3.9	学校は子どもの様子や教育活動の様子を伝える努力をしている。	4.5	学校は子どもの様子や教育活動の様子を伝える努力をしている。						
			アンケート結果を公開する。	学校便りで結果を公表する。											
			地域の人とふれ合う活動を計画的に実施する。	公民館・万寿会・保護者・地域の人と連携を図る。	万寿会といもの栽培を通して、年3回以上は一緒に活動する。	4.8	3.7	学校・地域・保護者の連携がとれている。	3.4				学校・地域・保護者の連携がとれている。	2.9 3.9	地域の人や家の人に学校に来て欲しい。おうちの人を悩ませたり、困っているとき相談に乗ってくれる。
					保護者の方に参加を呼びかける。	4.5									
				学校支援委員会を活用する。	学校支援委員会の話し合いを、教育活動に生かす。	5			4.4				職員の態度が感じがよい		
保護者・地域の人々の声に耳を傾ける。	保護者・地域の人に、アンケートを実施する。	保護者・地域の人にアンケートを実施し、学校改善に活用する。	4.6					B	<ul style="list-style-type: none"> 役員会は年間計画に位置づけてあるので項目から外す。 	A					
		フリー参観日の時には、保護者の交流の場を設け、学校に来やすい雰囲気作りを行う。	4.6												
	PTAとの連携を図る。	PTA役員とは学期に2度委員会を持つ。	5												

検証と考察

- ・江の川高等学校のブラスバンドの演奏は大きな印象を児童に与えた。今後も継続したい。
- ・郷田小学校の交流は単発で関わりが少なかった。
- ・松平小学校とは継続的に交流している。学期に1回本校で授業を受けるという交流だが、相互の交流も考えていきたい。
- ・学校支援委員会では貴重な意見をいただいた。今後も継続していきたい。

外部評価

- ・校種を超えた交流が行われていることを継続したい。
- ・地域、保護者との連携や交流が積極的に行われている。「学校へどうぞ」という気持ちが伝わってくる。
- ・良いことを積極的に行うことは必要だが、無理のない形でやっていき長続きできるものにしてほしい。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策

- ・中学校との連携に関する取り組みを必ず一つは入れていく。

⑩施設・設備

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	評価観点	自己評価の結果								自己評価	次年度改善策	外部評価
					教職員	保護者		地域		児童					
					評価	評価	評価	評価	評価	評価					
		定期的に安全点検をする。	点検の日を設定して行う。	月1回定期的に行う。	4.5								B	・安全点検が計画の日にできなかった。今後は15日を含む週で行えるようにする。	B
			複数の目で見えるようにする。		4.5										

検証と考察
 ・定期的に安全点検が行える体制になっている。経費を伴うものについては、点検したままになりがちな点が課題である。
 ・児童の目からの点検も必要である。

外部評価
 ・どのような点検がなされたか、その問題をどう改善していくか(経費の問題も含め)問題である。
 ・子どもや保護者が感じている困っていることなども聞くと参考になる。

外部評価を受け止めた学校としての次年度への改善策
 ・保護者アンケート,児童アンケートの中に施設設備に対する項目も入れ,学校関係者以外の意見も収集する。

自己評価

A極めて優れている B非常に良い C良い D課題がある E課題が多く速やかな改善が必要

教職員・・・4以上を妥当とする

保護者,地域,児童・・・3以上を標準をこえているものとする

数値の計算式

職員 (5×人数+4×人数+2×人数+1×人数)÷職員数 十分に達成できた:5 達成のために課題や問題があったが,達成できた:4 課題や問題が多く,達成のための努力をしたが達成できなかった:2 達成できなかった:1
 保護者 (5×人数+2×人数+1×人数)÷どちらともいえない そう思う:5 あまりそう思わない:2 全くそう思わない:1 どちらともいえない:カウントしない
 地域 (5×人数+2×人数+1×人数)÷どちらともいえない そう思う:5 あまりそう思わない:2 全くそう思わない:1 どちらともいえない:カウントしない
 児童 (3×人数+1×人数)÷どちらともいえないを除く回答はい:5 いいえ:1 どちらともいえない:カウントしない

外部評価書

渡津小学校